



単位取得の秘技

1. GPA とはなにか？

琉球大学は国立なのでとても多くの講義を履修でき、うまくいけば、全学部・全専攻の専門科目が勉強できます。せっかく難しい入試を乗り越えて、入学料・授業料を払っているのだから、専門以外の授業を取ったり、将来のために資格取得の講義を履修したりしてみませんか？

GPA(Grade Point Average)制度は、2009 年から琉球大学に導入されました。成績を五段階で評価し、評価ごとにポイントが付きます(A=4,B=3,C=2,D=1,F=0)。このポイントが GP(Grade Point)、GPA の計算方法は、 $GP \div$ 履修単位数です。例えば、1 年前期の私の成績が右図のようだったとすると、

1 年前期の GPA は 2.16 となり、後期にとれる単位数が決まります(学部ごとに異なりますが 2.0 ~3.0 はだいたい 20 単位)。GPA の特徴は、A や B を多くとれば GPA は相対的に上がりますが、

評点×単位= GP		
A : 4	× 2=8	GP=8+12+4+2+0=26 履修単位数=12
B : 3	× 4=12	
C : 2	× 2=4	
D : 1	× 2=2	
F : 0	× 2=0	

D や F が多かたりすると GPA は相対的に低くなります。なので、シラバスを見て簡単そうな授業に学生が集中する現象が発生するのです(共通教育に顕著)。では、どうすれば GPA を上げ、単位を多く取得できるようになるのでしょうか？

2.集中講義の基礎

その方法はズバリ「集中講義」です。これは夏休み・冬休み・春休みに、海にも行かず夜ふかしもせず黙々と大学に行って勉強するという方法です。これは大変つらいことですが、単位の取得効率から考えると、非常に効率が良いです。しかもこの集中講義は、たとえ実際に講義の時間がブッキングしていても、ダブル申請とはみなされないのが特徴です。

「ダブル申請」とは、前期・後期が始まる前に各自が大学の教務情報システムにアクセスし web 履修登録を行うとき、同じ時限に講義を登録してしまうことです。その場合、ポイントが多いほうが仮登録されるか、どちらとも削除されてしまう可能性があります。

しかし、集中講義は時限が「他」とされているため、ダブル申請の心配はありません。



ですから、気になったものはどんどん登録しておいていいと思います。

また、集中講義は学期の途中で随時履修者を募集するものです。そして各学部の事務は基本的には自分の学部の掲示板にしか集中講義の掲示を出しません。つまり、集中講義で単位を稼ごうとする人は、球陽橋の往復(ループ道路の周回)はもちろんのこと、さらに医学部の講義を受けたいなど思ったならば、ココストア隣の長い坂を登らなければなりません。このことを注意しておく必要があります。

3. GPA は大丈夫？

ですが、「そんなに大量に登録して、実際に講義に出られなかったりしたら、GPA が下がったりして、就職の時にヤバいんじゃないのか」と疑問を持つ人も多いでしょう。

集中講義は平たく言えば「学外研究者の講演会」で、世話人の教授が学外から知り合いの先生を招いて講義をしてもらうので、普通の琉球大学では聞くことができなく、講義のテーマも興味深いものが多いです。最近では、講師が壇上でずっと話し続けるよりも、アクティビティやグループ活動を学生にさせてみるタイプの講義も多いので、退屈しません(e.g. 「囲碁の世界」、教育学部の集中講義)。

気になる出席や試験・レポートについては、出席の取り方は、①その日の最初に取り、②午前と午後の 2 回にわけて取る、③毎時間コメントシートを提出して出席を取る、の 3 パターンです。レポートの場合も、①「～について論じよ」¹、②「授業で言ったことを書け/授業のテーマから一つ選び論じよ」²の 2 パターンです。集中講義は 4～5 日(早い場合は 2～3 日)で 16 コマ終わらせる必要があります、成績も講義終了後 1 週間以内(うろ覚えです。確かではありません…)につけなければいけないので、パターンが定型化してきます。

ですから、出席の取り方と、上記のレポートの書き方を習得すれば、集中講義を落とすことはまずないと思います。試験はレポートの延長線上だと思えば大丈夫です。

4. 標準履修年次

『学生便覧』の「開設科目一覧」には「標準履修年次」という項があり、その講義のおおまかな履修すべき学年が示されています。しかし、これはあくまで「標準」ですので、3

¹ 「単位の取得について論じよ」というレポートがあった場合、まず「単位」という単語の意味を理解しておきましょう。次に自分にとって「単位」とはなにか、社会にとって「単位」とはなにか、なぜ必要かを考えるとうまく書けます。「社会にとって」を考えるには、新聞などを読んでおくことが重要です。

² 講義でレポートを書くうえでの重要キーワードについて説明している場合が多いです。友人と一緒に履修して聞き逃したところのノート、レジュメをコピーできれば安心です。



～4 年と書いてある講義は必ず 3 年次で受けなければならないというわけではありません（ゼミなどは例外）。ただし、教授によっては、これらの事項を厳密に守る方もいらっしゃるので注意しておいてください。

また、共通教育の講義は 1～5 組などクラスが分けられていて、好きなクラスに自由に履修登録できる場合と、学部学科によってクラスが決められている場合があります。人気のクラスは受講人数が偏るため、ポイントを多く掛ける必要があります。仮登録後、共通教育棟 1 号館に各クラスの人数が書かれた表が貼りだされているので確認してください。空いているクラスに入れてもらえることがあるからです。

5. まとめ

以上のように、集中講義を履修して単位を稼ぐことの利点は、

- ①琉球大学では普段聞けない「学外研究者の講演会」
- ②長期休暇中の最長 5 日で講義が終わるので、前期・後期の平日の時間を別のことに使える
- ③レポート・試験が定型化している

逆に、欠点もあります。

- ①いつ集中講義の掲示が貼り出されるかわからず、随時掲示板をチェックしなければならない
- ②長期休暇中に大学に出なければならず、とり過ぎると周りとの日程を合わせられない

集中講義を履修すると最も効率のよいのは自由科目です。自由科目は、少ないところでは 4 単位、多いところでは 48 単位もありますが、これを 1～2 年のうちに集中講義である程度埋めておくと大変効率がいいです³。一般的なことを書くと、大学の講義のレベルは「1、2 年」と「3、4 年」に分けることができますと思います。「1、2 年」のうちに共通教育や他学部提供の集中講義などを広くとり、単位を埋めつつ教養を広げておいたほうがいいと思います。「3、4 年」は専門科目を極める年です。3 年次からは本格的にゼミも始まり、ここで手を抜くと落ちこぼれます。そして 4 年は卒業研究や就職活動、進学の勉強などに忙殺されます。卒業研究の時に、「こんなものって意味あるのかなあ」と思っていた共通教育や他学部の集中講義の知識が役に立つこともしばしばあります。

大学は果てしなく自由であり、その自由は、墮落との永遠の闘争でもあります。このガイドを 1 つの生き方として、皆さんの頭の片隅にカケラとして、必要なときに取り出してくれたならば幸いです。

³ 理・工・農学部は、他学部提供の専門科目（つまり他学部の集中講義）のみ自由科目とみなすとしているので、注意が必要です。